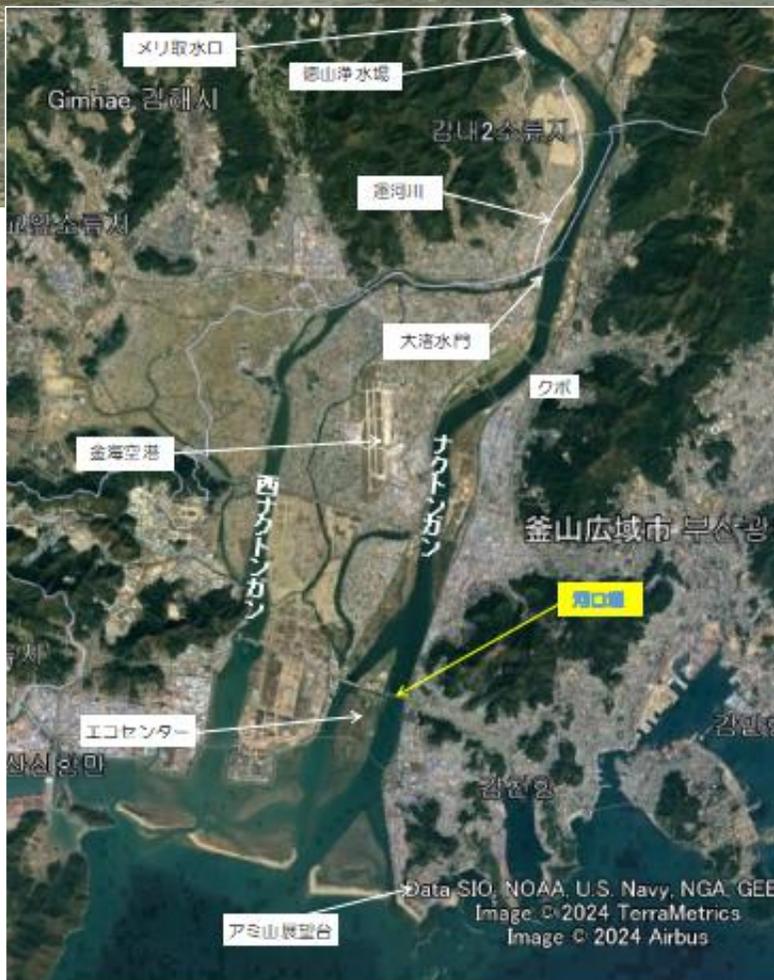
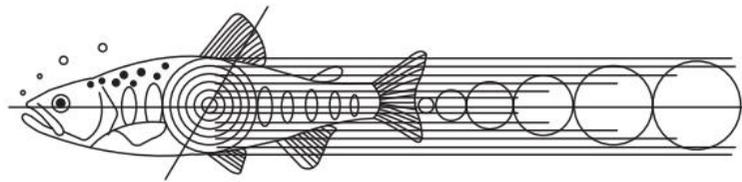


news

長良川市民学習会ニュース



韓国ナクトンガン河口堰 2022年～常時開門



2024/9/28-10/1 ナクトンガン河口堰視察

No.41

2025年3月1日

河口堰は洪水調節に役立ったのか? 粕谷志郎	1
情勢と活動報告 武藤仁	2
ナクトンガン河口堰視察報告	4
矛盾を深める徳山ダム導水路	8
偲ぶ 磯貝政司さん / 『長良川漁師口伝』紹介	12
事務局より	13
河口堰運用30年ー開門めざす 2025年イベント	15

長良川河口堰運用30年

河口堰は洪水調節に役立ったのか？

長良川市民学習会代表 粕谷志郎

長良川河口堰の事業主体である水資源機構は出水の際に河口堰が洪水調節をしているかのような主張を繰り返してきました。長良川は、現在 $7,500\text{m}^3/\text{秒}$ の出水に耐えられるように管理されています。しかし、2004年台風23号による出水では $8,000\text{m}^3/\text{秒}$ の流量が記録されました。しかも、何らトラブルなく、堤防の下2mに設定してある安全ラインのさらに下1.6m~3.5mの水位で流れ下りました。1998年以降は浚渫も行われていません。この時長良川河口堰のゲートは全開のままであったことは言うまでもありません。河口堰が洪水の調節に何ら関係のない構造物であることは明らかです。それどころか、高波や津波の時にはゲートに当たった海水が破堤を引き起こす危険すらあります。

線状降水帯なる用語は今や当たり前に使われていますが、2014年8月広島県の豪雨から頻用されている新しいものです。この30年間に明確になってきたことの一つに、豪雨災害が日常化したことがあげられます。この線状降水帯なるものが長良川流域に長時間居座ったとしたら、 $8,000\text{m}^3/\text{秒}$ をも超える流量は容易に想定できます。では、次は $8,500\text{m}^3/\text{秒}$ に耐える河川にしますか？ $10,000\text{m}^3/\text{秒}$ も視野に入ってきます。不可能ではありませんが、どれだけの費用がかかるでしょうか、想像できません。もちろん、河川にだけ国家予算を費やせるものでもありません。堤防が安全を保証する限界を超えることは確実です。各自が命を守る行動をとるしかありません。遠隔避難も含めた避難経路の確認が急がれます。

昨今の豪雨災害の最大の原因は地球温暖化にあることは間違いありません。現在の温暖化のレベルは産業革命以前の地球平均気温から 1.3°C の上

昇です。世界主要都市の繁栄はこの範囲内である過去から現在までのものでしかありません。昨年はこれが 1.5°C を越してきました。あくまで単年ですが、これから平均 1.5°C 上昇の世界に突入することは間違いありません。どれほどの破壊的事象が待っているのでしょうか。「(化石燃料を)掘って、掘って、掘りまくれ」と言う大統領が誕生しましたが、過去の亡霊に取り憑かれた老害としか言い様がありません。結局は再生可能エネルギーに切り替えて行くことが、最速、最安価な道と思われず。

長良川河口堰は洪水には有害な構造物です。洪水の時に全開したゲートを平時に閉鎖しなければならないのでしょうか。閉鎖すると汽水域は失われます。汽水域は熱帯雨林にも匹敵する地球上で最も生物生産の高い領域の一つです。生物の多様性も量も一杯ということです。もともと長良川下流域では、伊勢湾台風の高潮など限られた場合を除き、塩害は発生していません。浚渫をしたから塩水が上るとの主張がありますが、長良川はしっかりした流量、流速のある川です。塩水遡上の先端部は流水との衝突で猛烈に薄まります。30数kmまで、海水そのものが遡上するとするシミュレーションはあり得ないことです。過去の測定では5km上ったあたりで塩分濃度は半分近くまで低下します。この測定はマウンドを除いた部分の浚渫が終了した後に行われたものです。川底を深く掘ったからと言って塩分濃度が上がる理由はどこにもありません。このまま開放し続けても塩害は想定できません。百歩譲って、心配があると言うなら、農業用水を取水しない時期に短期間開放し、塩水遡上の実測をすれば明瞭になります。これからの河口堰は、科学的データを基礎に運用し、必要なデータは取りに行く必要があると思います。そして何よりもヤマトシジミなどの汽水性生物の復活、トラックを使わずとも、ふ化したばかりのアユの子供が、海まで下ることの出来る、流速を回復すること、これこそが今後の堰の運用で求められる事ではないでしょうか。

情勢と活動報告

長良川市民学習会 事務局長 武藤 仁

前号 40 号発行 2024 年 6 月 5 日以降の長良川の状況と長良川市民学習会の活動報告をします。

徳山ダム導水路事業の「継続」決定

導水路事業の検証のとりまとめを急ぐ国・事業者は、5月17日第2回「検討の場」を開催した後、本省へ上げる「検討報告書」の（素案）を提案し、形ばかりの意見を聴く場を設けました。

6月5日の「関係住民からの意見聴取」では、名古屋、岐阜の会場で私たちの仲間が意見を述べました。有識者から聴く場でも事業の根幹に関する疑問が多く出されていましたが、まともな回答もなく地方の検証は終了し、8月27日国土交通省は事業継続の決定を発表しました。

疑問を残したままに進められようとするこの事業について、私たち「よみがえれ長良川実行委員会」は9月12日に国交省中部地方整備局長に対し「公開質問状」を提出しました。

回答は10月30日にありましたが、まともに答えようとしない不誠実なものでした。質問・回答は中部地整ホームページ「頂いたご意見について」https://www.cbr.mlit.go.jp/kawatomizu/chubu_dam/goiken.htm をご覧ください。

私たちは11月12日に再質問。回答は、1月16日にありましたが、最初の回答に輪をかけた不誠実なものでした。

本導水路事業は、事業費を2.55倍にする中でさらに問題を抱えたものになりました。詳細は、「矛盾を深める徳山ダム導水路」（本誌P8～）をご覧ください。

パネル展「よみがえれ長良川2024」開催

よみがえれ長良川実行委員会は、恒例となったパネル展を6月29日（土）から7月1日（月）メディアコスモスぎふギャラリーで開催しました。今年は「長良川漁師口伝」や最近発売された「長良川のアユと河口堰」に使われた磯貝政司さんの作品22点を展示する「写真展」と、伊勢の漁師の娘でイラストレーターの矢田勝美さんの作品を鑑賞する「いのちをつなぐ海のものごたり」コーナーを開設し実施しました。

600人を超える市民が来場。図書館などを利用する家族づれも多く、来場者の4割が20歳未満でした。水槽の魚を見、カニと遊ぶコーナーは子どもたちに大人気でした。



2024年（令和6年）9月13日 金曜日

社会 24



2024/9/13 岐阜新聞



2024/9/12 国交省中部地整前で
アピール行動

愛知県長良川河口堰最適運用検討委員会が プサン市を訪問しました。

愛知県の検討委員会は8月28～30日、釜山市・ナクトンガン河口堰を訪れました。K-water（水資源公社）プサン支社では「報告・交流会」を行い、検討委員である長良川市民学習会の武藤はN G O活動について報告しました。



また、最終日の30日に釜山広域市役所を訪問し釜山市と愛知県の河口堰を通じた今後の交流を確認しあいました。



左3人目から 李釜山市環境水政策室長、小島座長、田村水資源監、武藤検討委員（プサン広域市庁にて）

ナクトンガン河口堰視察と報告書

よみがえれ長良川実行委員会は、9月28日から10月1日までナクトンガン河口堰視察を7名の視察団で行いました。河口堰では、統合管理センターにおいてk-water 職員のレクチャーを受け堰の施設案内もしていただきました。

河口堰開門にかかわる漁民、農民のヒヤリングについては「韓国川が甦るネットワーク」共同代表イ・ジュンギョンさんのお世話になり、現場の状況を詳しく聴くことができました

詳細は「2024 ナクトンガン河口堰視察」（本誌P4～）をご覧ください。また視察団は「報告書」を取りまとめ12



月に公表しました。当会ホームページにアップしていますので是非ご覧ください。

大型公共工事の事故の激化と維持管理の破綻

この稿を執筆している現在、埼玉県の下水道陥没事故のニュースを食い入って見えています。とんでもない大惨事になってしまいました。復旧はおろか当面の処置も巻き込まれた運転手の捜索もできない状況です。120万人の「流域下水道」です。流れ下る大量の排水が制御できないのです。

では、徳山ダム導水路は？ 埼玉県の下水管（口径4.75m）ほど大きくないとはいえ口径3.5mで外側のセグメントを入れれば4mを超える管路となります。深さは埼玉県の下水道が10mに対し、導水路は岐阜市内で約20mです。事故が起きたとき地上から修理することは困難です。さらに高水圧の管路であることも、惨事を拡大させます。誰も必要としないこの事業。なんで私たちがこんな大きなリスクを背負って行かなければならないのか！

岐阜県瑞浪市のリニア中央新幹線工事でも地下水の低下と地盤沈下という取り返しのつかない惨事が起きています。事業者は工事との関連性は認めましたが有効な対策を示すこともできず工事はストップしたままです。

5月17日、導水路「検討の場」において瑞浪市長はこの事故の被害の実態を報告しながら「導水路工事ではこのようなことがあってはならない」と悲痛な思いを訴えました。

岐阜市、各務原市など導水路工事沿線自治体は水道水源を100%地下水に依存しています。瑞浪市長の言葉を重く受け止めなければなりません。

自衛隊基地に起因するPFASで各務原市は水道水源の半分が汚染されました。今、同市では、新たな水源（地下水）確保の議論がされています。

水源を失うことは、大きな代償を負うことになります。あってはならないことです。

ナクトンガン河口堰視察報告

「よみがえれ長良川実行委員会」が9月28日～10月1日にナクトンガン河口堰を視察しましたので、その報告します。

まず、この視察に至った経緯から述べます。長良川河口堰の開門をめざす市民団体と韓国の環境NGOとの交流は、2010年名古屋で開催された生物多様性COP10会場での出会いからです。当時もっとも注目されていたのは、李明博政権下ですすむ「4大河川事業」が引き起こす河川環境の破壊でした。

私たちは、早速2012年、2013年に訪韓し4大河川事業現場を視察し韓国のNGOとの交流を深めました。2013年の訪韓では、クムガン（錦江）を訪れた際ソチョン郡が準備した「クムガン-長良川海水流通討論会」に招かれ、韓国の河口堰開放運動を初めて知りました。

ナクトンガン河口堰については、2016年3月プサン広域市庁から長良川市民学習会が活動の「照会」を受けたことから情報交換・協力が始まりました。これを機に同年7月、愛知県長良川河口堰最適運用検討会主催「県民講座」への釜山市気候環境局長の講師招聘、同年10月よみがえれ長良川実行委員会の釜山市訪問とナクトンガン河口堰市民団体との交流へと発展してきました。



2016/10/8～11 ナクトンガン河口堰視察と交流の旅

2017年5月「ナクトンガン河口堰開放」を公約にかかげたムン・ジェイン政権が誕生する下で、国土交通部の姿勢が変わり河口堰開門の動きに弾みがつきました。同年12月よみがえれ長良川実行委員会が主催する「2017開門シンポジウム」には、韓国のNGOを招き河口堰開放運動の報告を受けました。愛知県の検討委員会も2019年県民講座に韓国から講師を招きましたが、ここ

で私たちは塩水を遡上させる「実証実験の開始」を知りました。

実証実験が順調に進み2022年3月12日には「常時開門」が始まった情報は入りましたが、徴用工問題から発した外交途絶と新型コロナ発生による渡韓禁止で現地視察はかないませんでした。また2022年5月のダム推進のユン・ソクヨル政権の誕生で、日本にいる私たちにはナクトンガン河口堰の現状と行方が見えなくなっていました。やっとコロナが沈静化するのを見て、私たちは、現場の状況を直ちに調べようとナクトンガン視察を計画しました。

視察のポイント

1. 常時開門になった河口堰の運用状況
2. 農業の塩害対策と現況
3. 魚類への影響と漁民の状況

視察個所（位置は、本誌表紙を参照）

1. ナクトンガン河口堰・統合運用センター
2. ナクトンガン河口エコセンター
3. テチョ水門（農業用水）
4. メリ取水場・トクサン浄水場
5. 運河川・トマト農家
6. 漁村愛好協会（クポ）

（現地案内）韓国川が甦るネットワーク

共同代表 イ・ジュンギョンさん

（通訳）田中博さん

視察団 7名：亀井浩二、武藤仁、高木邦子
近藤ゆり子、渡辺泰、三石朱美、今井栄一



ナクトンガン河口堰の運用

2018年から始まった塩水遡上シミュレーションと環境評価をもとに試験開門、2022年常時開

門にすすんだ状況を見ることができました。

ムン・ジェイン政権のもとで河川管理は建設行政から環境行政に移され、河口堰の運用は環境部に委任されたK-water（韓国水資源公社）が行っています。現在河口堰は、10門のうち1門が常時開門され、河口から15 km付近まで汽水域を造成する運用が行われています。



私たちは、K-water 職員の案内で河口堰を見学しました。堰がこの2、3年で大幅にリニューアルされていたのには驚きました。K-water 釜山圏支社事務所に一番近い堰柱（写真：一番左）は、市民がエレベーターで立ち入ることができる構造に改善され、案内パンフレットでは「生態鳥観察台」と紹介されていました。

堰全体も周辺環境（左岸高層マンション群からの目線、道路橋として利用するドライバーからの目線）を配慮した意匠がこらされ、夜間の照明も堰の状況を知らしめる工夫が施されていました。

支社事務所上流側に、2021年に開設されたナクトンガン河口統合センターがあります。ここでは、リアルモニタリングシステムが構築され、河口から上流約30 kmまでの「塩分、水深、電気伝導度、水素イオン濃度、溶存酸素など」の状況がわかるようになっていました。



そのデータを使って「塩水遡上」を鳥瞰的にも縦断的にもみられるよう作られていました。

また、地下水の水質については釜山市のホームページから、河川の水質についてはK-waterのホームページを通じて管理者が確認しているモニタリングデータと同じものを同じタイミングで誰でも確認することができるようになっていたとのことでした。これによって、農業の塩害対策の信頼にもつながっているようです。

なお、水質管理測点設置については、長良川河口堰、利根川河口堰の先例を細かく調査しシステム構築に生かしてしていることは聞いていましたが、見事に生かされていると感じました。

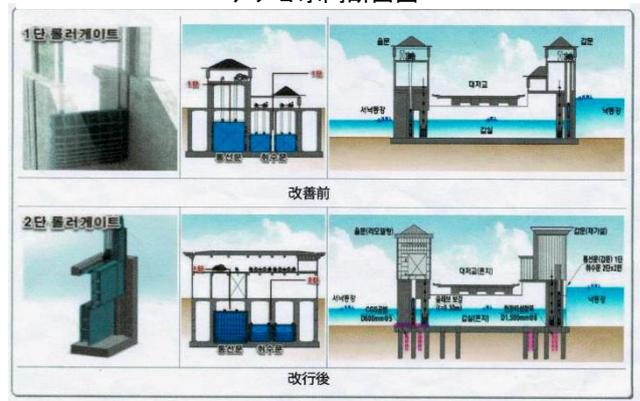
2. 河口堰開門・塩水遡上に伴う取水問題

農業用水について

金海平野の農業用水は、西ナクトンガンの淡水によって支えられています。その淡水化は、1935年、当時統治していた日本が河口に潮止堤防（ノクサン）を建設することにより始まっています。西ナクトンガンは、テチョ（大渚）においてナクトン川から分流しています。

現在、ナクトンガン河口堰の常時開門は、堰上流15.4 kmに位置するテチョ水門から西ナクトンガンへの塩水流入を避けるために、堰上流12 kmを基準に塩水遡上がコントロールされています。したがって、これ以上の汽水域の拡大をめざすにはテチョ水門の選択取水が可能な構造の水門改造が必要となります。

テチョ水門断面図



改造は、従来1段式であったものを2段式のローラゲートにするものでした。国費事業273億ウォンで設計・施工は釜山市。長良川河口堰

のゲートを参考にしたそうです。事業期間は2021年8月～2026年12月。

汽水域をさらに拡大するうえでの水質悪化・塩水侵入の対策として、テチョ水門よりさらに18km上流に取水口を設けて西ナクトンガンに導水している「運河川」（給水能力約20m³/秒）の活用事業が行われています。これは農漁村公社の施設で、現地では「金海平野運河取水門」を見学しました。近辺にウォルタン揚水場などK-water管理の施設も並ぶようにして整備されていました。



トマト農家を訪問して

テチョの北ドン地域でハウス栽培をするキム・ボウさんの現場を汽水域復元協議会の紹介で訪問しました。「テチョトマト」は、有名で経営はうまくいっているようでした。液肥の研究を積み重ね、連作被害・塩害も十分対策しているとのことでした。1976年の金海空港建設前から70年間営農していると話していました。

農場には、上流の徳山浄水場から工業用水の初めの処理段階の水を引いているとのこと。農場に50mmメータが設置されていました。傍を流れる運河川の水は使っていないとのことでした。



環境部・K-waterの資料によれば河口堰近隣（河西区）の農耕地面積は4,193haで、農地面積も農業人口も減少傾向。この地域は金海新空港、新都市開発、開発特区など開発事業が進

められ、開発が完了する2027年には2019年比較で農耕地は70%減少すると予想していました。

農地の減少ばかりでなく農業の様相も長良川河口堰周辺の地域と大きく違うように感じました。水田が農地に占める割合は、金海平野で39%（復元協議会から頂いた資料から）、一方、高須輪中は88%（「高須輪中土地改良区だより」から）で、農業用水依存度もかなり違うようです。

戦前、日本は金海平野の水田開発を進めたが、目的は本土への米供給のためだった。この地域の農民がそれほど水田にこだわらないのはそのような歴史経過からかもしれない。

開門反対派農民のヒヤリング

なお、現場では、案内人であるNGOのイ・ジュンギョンさんの紹介で、河口堰開門反対派の農民バン・ジェファさんにヒヤリングができました。

バンさんは塩に強いトマトやネギを栽培していてトマト価格は他の地域の2～3倍でうまくいっているようでした。栽培の地域が海拔20センチと低いため河口堰開門による塩水遡上の塩害を心配して反対し、K-waterの塩分データを注視しているという。現段階では被害が出ていないようでした。

「最近、反対のデモなどをやってないようですが？」と聴くと「仕事が忙しくてやっとな」と、意外にあっさりした返事でした。

なお、このヒヤリングで驚いたのはプサンのNGOは日常的に開門反対派の人々と交流していることでした。開門をめざす汽水域復興委員会の中で、NGOが反対派住民との折衝を担当していることを聞いていましたが、今回のヒヤリングで納得がいきました。

工業用水の取水口移転について

釜山市工業用水は、河口堰開放準備として、堰上流8km地点にあった取水口を、堰上流32kmにある徳山浄水場に移転したと



メリ取水場

のことで、カーナビを頼りに徳山浄水場とその取水口のメリ（梅里）を訪れました。

取水場の案内板によれば、メリ取水場の施設能力は172.5万m³/日。ここには国立環境科学院水質測定センターもありました。

徳山浄水場は釜山市の上水道の浄水場として1987年に40.25万m³/日から始まり現在115.7万m³/日の施設能力を持つ大規模な施設でした。河口堰開門準備の「工業用水への利用転換」は2017年から始まりまし



トクサン浄水場

3. 漁業について

河口堰上流約12km左岸にある町クポを訪れ、社団法人 韓国漁村愛好協会 会長ユ・ジョンギルさんにお話を聞くことができました。

漁村愛好協会は漁協ではないが並立したような組織のようで河口堰から300km上流のアンドンまで漁民489名が加入。ユさんはクポ生まれで、漁師歴70年。アンドンまで船を漕いでいったこともあったそうです。



「1988年河口堰運用以前には40種の魚種があった。潮は稀にメリより上流3kmぐらいまで上がることもあったが、大体テチョ水門ぐらいのところまで止まっていた。シジミ漁はクポでもやっていた。かつては、韓国と日本のシジミを放流していた。河口堰建設反対には2000~3000人の集会をやった。建設補償金は500万ウォンだった。組合員は5000人いた。2011年には3年半の4大河川事業で、魚は全くなくなった。フナ、コイ、ナマズ、カルムチなど数種類で、ほとんど外来種。補償金は、月10万ウォンだった。全く酷かった。いま経費は1万ウォンで収入は1000ウォン、これでは専門ではやっていけ

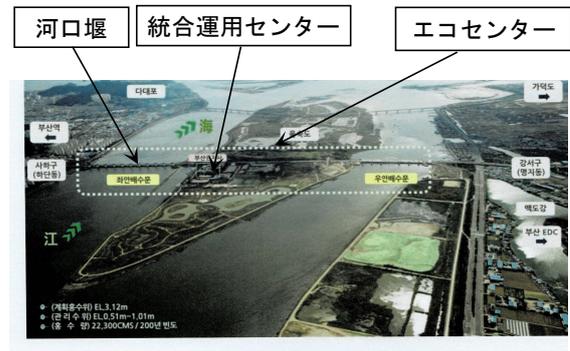
ない。別の収入で過ごしている」と話された。

河口堰の試験開門後は「シジミ、いま稚貝はいるが小さくてまずい。まだ商品にならない。ソンジガン（蟾津江）*から稚貝を持ってきて放流している。ウナギは上がってくるが生息は難しい。4大河川事業で建設された上流の8つのダムで流れが止まり砂が流れてこなくなったのが一番の痛手だ」と繰り返して話されました。

*ナクトンガンの西にある清流

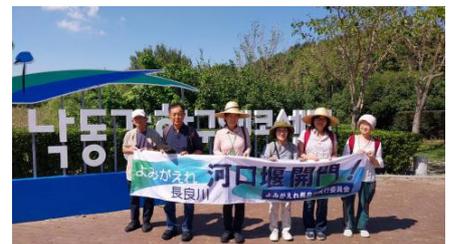
4. ナクトンガン河口エコセンター

ナクトンガンの中州ウルスクド（乙淑島）に立地するエコセンターを視察の最後の日に訪問しました。河口堰管理事務所の下流側の道を挟んだところにあり、河口堰と連携した施設となっている。ヨシ原と緑地に囲まれたこの施設は、山下保博氏の設計で環境とマッチしたとてもおしゃれでデラックス。家族づれの市民が河口の生態系を学ぶには最高の場となっていました。



ウルスクド(乙淑島)

1990年代、ナクトンガンは中流のテグからの産業排水で汚染が激化し深刻な状況でした。ウルスクドは釜山市民のゴミの処分地にまでなっていました。この島を、ここまで自然再生させた市民のエネルギーは、「東洋一の渡り鳥の飛来地を守れ」「シジミ売りの声でにぎやかだった釜山を取り戻そう」というロマンだったと言います。「河口堰開門」もその重要な柱に



矛盾を深める徳山ダム導水路

徳山ダム導水路事業費 890 億円から 2,270 億円の増額 (2.55 倍) を、初めて市民が知ったのは、昨年 3 月 28 日に開催された「木曾川水系連絡導水路事業関係自治体からなる検討の場」第 8 回幹事会でした。

ところが、こんな驚くべき提案にどの自治体からも反対や質問の意見は全く出ませんでした。国・事業者から根回しされていたのでしょうか (岐阜県では、この幹事会と同時に各県会議員にこの増額・工期延期の情報が届けられていました)。

増額の根拠に、当初の平成 18 年度単価と比較し、物価上昇、働き方改革、改正品確法、消費税率引き上げ (5%→10%) が挙げられていますが、上げ幅の大きさには納得できません。

また、新たに「予見不可能な将来の事業費の要因に対応」の対策として総事業費の 10% の 200 億円のリスク対策費を加算しています。これを「リスク管理社会にふさわしい措置」として、持ち上げる学者もいますが、要らぬ事業に「膨らまし粉」をまぶすやり方は、負担者である国民としてはたまりません。

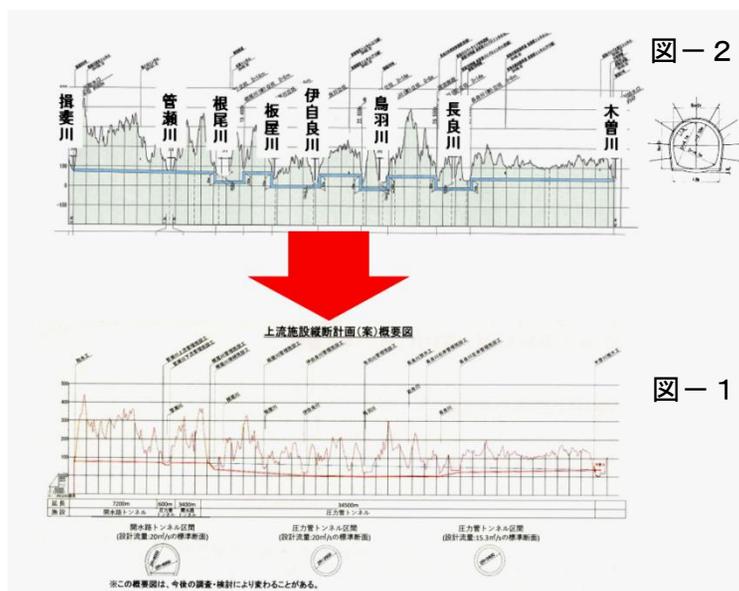
地下水対策から工法を変更

3 月 28 日の事業費増額提案に併せて提示された「上流施設縦断計画 (案) 概要図」 (図-1) は、これまで提示されてきた図と全く違ったものでした。ところが、幹事会では 1 本の赤線で明示するだけで全く説明がありませんでした。出席者から質問が出ないのも異常でした。

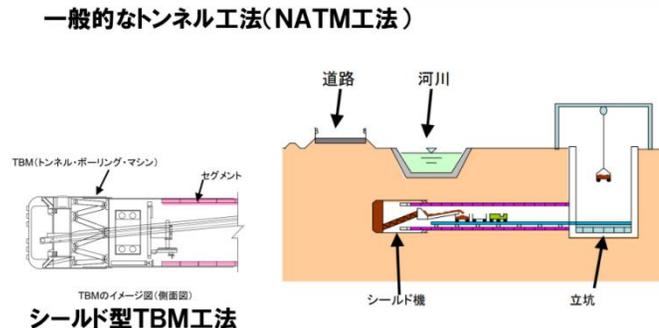
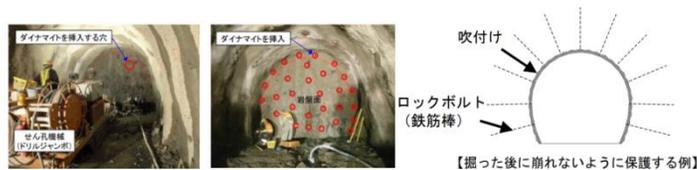
これまで説明されてきた縦断図 (図-2) では、長良川など河川を伏せ越す部分だけが「圧力管」で計画されており、基本は NATM 工法 (山岳工法) で施工するものでした (当初、「工事費が比較的安価だから」と説明されていました)。新しい案では、根尾川右岸から木曾川まですべてが圧力管に変わっています。

大幅変更の理由は何か? 何度も導水路建設所に

問い合わせても、明確な回答はありませんでした。そこで、国会議員を通して、直接国交省に資料提出を求めました。また、よみがえれ実行委員会として国交省中部地方整備局に対し公開質問状を提出しました。

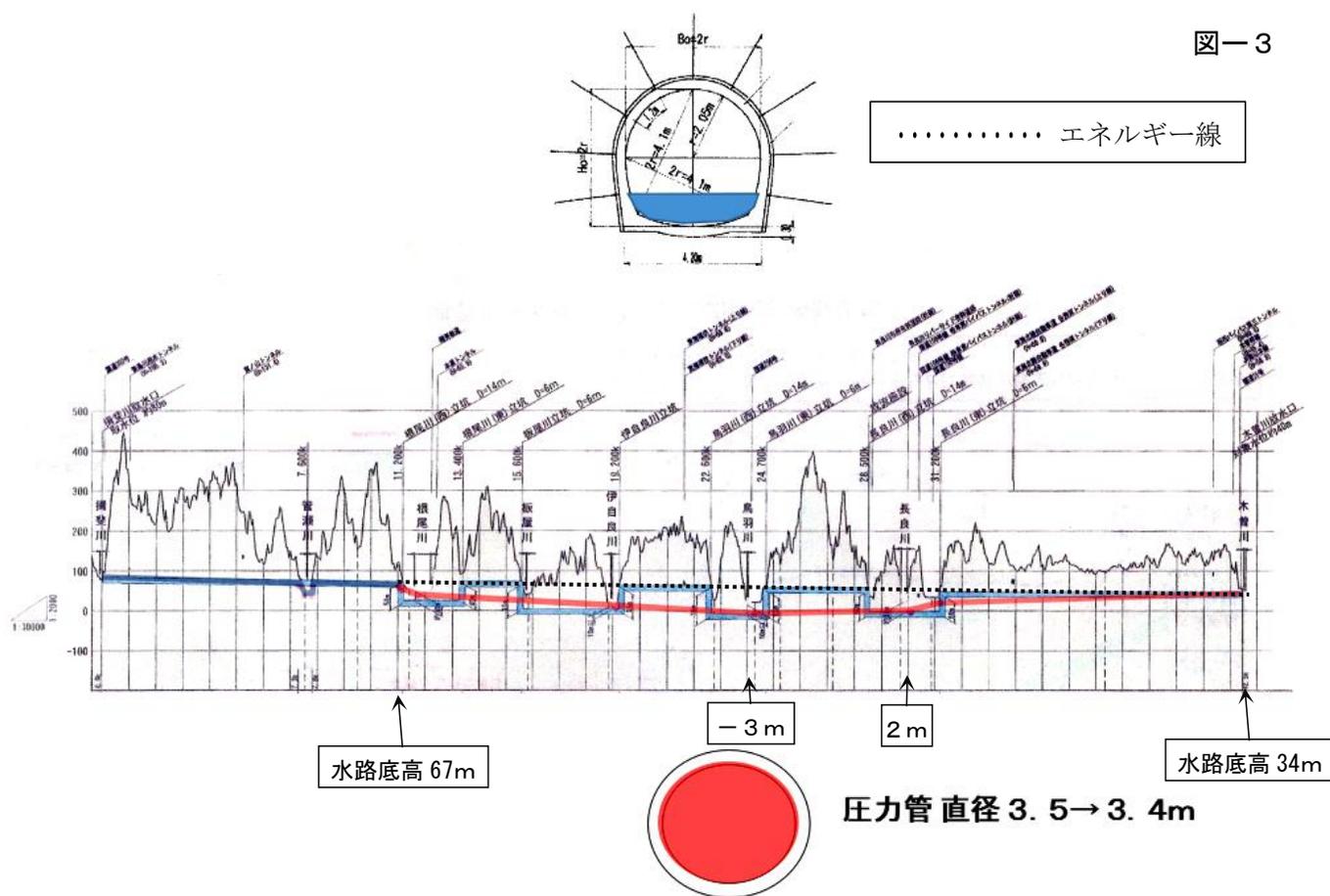


回答によれば「平成 21 年 7 月に公表した環境レポート (案) では、水環境 (地下水の水位) について、一般的なトンネル工法 (NATM 工法) では、覆工後、地下水の水位はある程度回復すると見込まれるが、施工前と比べて水位が低下した状態となる可能性がある旨の予測結果となりました。また、シールド型 TBM 工法では、掘削後の覆工を早期に実施することで、早期の水位回復が見込まれ、地下水の水位への影響は限定的かつ一時的なものになる旨の予測結果となりました」とありました。



木曾川水系連絡導水路建設所ホームページより 抜粋コピー

図-3



確かに、環境レポート案にはNATM工法では
 施工中に20mの低下。工事後は10m回復しつつも
 10m低下の予測の記述があります。

いま、岐阜県瑞浪市で甚大な地下水低下・地盤
 沈下事故を引き起こしているリニア中央新幹線工
 事もNATM工法です。またリニア工事現場の各
 地で人身事故を起こしています。工事はストップ
 し、全く今後の目途は立っていません。

では、地中深くマシンを使って貫通させるシ
 ールド工法なら問題がないのでしょうか。

シールド工事による事故も続発しています。大
 都市圏では大深度の施工（深さ40m以上）なら
 地上に影響ないという見込みで作られた「大深度
 法」を盾に大型トンネル工事が行われていますが、
 昨年秋、リニア新幹線シールド工事で東京都
 品川区では目黒川から危険な酸素濃度の気泡が噴
 出、町田市では民家の庭から水と気泡が噴出する
 など、住民を不安に陥れる事故が起きています。

また昨年9月26日広島市では下水道シールド
 工事で地盤が陥没。周りの下水管、水道管の破損

を引き起こし、ビルが傾くなど避難対象14棟に及
 ぶ大事故が発生しています。

開水路管が「圧力管」に变身

導水路工事では地下水対策を主な理由に工法を
 変えることにより、構造も大きく変えられました。
 下水管や雨水管のように上部に空間を残しながら
 自然流下で流れる開水路から常に水圧が加わった
 水道管に変わるということです（図-3）。

では、いったいどれだけの水圧なのか。公開質
 問の回答から得た「エネルギー線」と「水路底高」
 から推測すると岐阜市内辺りでは約0.5メガパス
 カルとなります。一般の水道管が約0.3メガパス
 カルですからかなりの高圧管となります。よくテ
 レビ報道で水道管が破裂した！と水が道路からあ
 ふれビルの高さまで吹き上げる映像を目にします
 が、せいぜい口径が0.3mで0.3メガパスカルで
 す。

口径3.5m、水圧0.5メガパスカルの水道管破
 裂！ちょっと恐ろしくて想像できません。

長良川への放水位置が「鵜飼い場」に接近

新しい縦断図では、長良川への放水位置が河口から56.4 km付近（古津川谷川地点）から同55.6 km付近（岩船川地点）に変えられています。鵜飼い場に800mも接近します（図-4）。変更理由を問うと「位置は確定していません」と説明を拒否。鵜飼い場の直近上流で徳山ダムの水が放流されることには黙ってはられません。

検討の場で、岐阜市は「長良川への導水は異常渇水時のみに実施するとのことですが、その緊急水の補給の実施基準やその放水地点の設定に関して、環境への影響に関する調査・検討を実施していただくとともに、詳細な説明をお願いしたい」と発言しましたが、事業者は何も答えてはいません。

また、新しい縦断図では新たに9か所の「管理施設工」が登場する。これは、工事中はシールドの立坑として使い、完成後は管路の維持管理資材の搬入及び水抜きとしていますが、掘削土砂の処分、維持管理用に排出する水や堆積土砂処分については何も明らかにしていません。



岐阜県は「検討の場」で「15年近くの間が経過し、環境の変化があるものと思われる。再検討をした上で環境レポートの見直しをお願いしたい」ということでもあります。その上で、県としても検討作業を再開し、関係市町や有識者の意見を伺いながら、しっかりと精査をしていきたい」と発言しています。

岐阜県は、平成20年徳山ダム導水路の事業実施計画について、事業者に対し「木曾川水系連絡導水路による導水については、導水先の河川環境に

配慮し、これに必要な施設の設計を行うことを条件に、異議はありません」と回答しています。

改めてこの立場を確認することが必要です。

異常渇水時の「流水の正常な維持」理解されない

本事業の最大の目的である、異常渇水時の「流水の正常な維持」は、全く理解されないままです。市民はもちろん意見を求められた多くの学識者からも「説明不十分」の声が出ています。

この事業計画のスタートから私たちは一貫して「設定された木曾川と長良川の『正常流量』は、非科学的な『ヤマトシジミの生息のために必要とされる塩素イオン濃度と流量の関係式』を用いたり、1994年の大渇水時の実態を無視したり、科学性や市民感覚と乖離したもの」として専門家を入れた公開討論を求めてきました。

しかし、無視されてきました。今回の公開質問でも、はぐらかして「歴史的経緯」を持ち出して回答していますが、それを踏まえた再質問にも初めの回答の「コピペ」文で逃げようとする全く不真面目な対応です。

歴史的経緯と言うなら、「異常渇水時の環境維持」という目的は、元はなかったのに利水者が撤退する中で徳山ダム建設事業を存続させるために、その穴を補うための「つくられた目的」であるというのが真実です（図-5）。 -



図-5 徳山ダムの貯水容量 (66,000万 m^3)

なお、私たちは「環境などに係る費用対効果の計算が、『ダム建設を前提にした』身替りダム建設費の算定で行われています。（中略）身替りダム建設費によらない事業評価を再検討しませんか」と迫りましたが、中部地整は「全体として便益を適切に算定する方法がない・・・」と検討しない姿勢を見せています。

しかし、国交省関東地方整備局は、霞ヶ浦導水事業（再評価）の平成2年の事業評価監視委員会において「霞ヶ浦の水質浄化」と「桜川・千波湖の水質浄化」のCVMアンケート調査による便益算定を行っています。

CVMとは、仮想的市場評価法といわれるもので、人々に「この財や効果を得るためにいくら支払う意思があるか」尋ね、その回答をもとに価値を推定するものとされていますが、徳山ダム導水路事業評価においても、一つの方法として考えられてもよいのではないのでしょうか。

必要のない事業からは、今すぐ撤退を

私たちは導水路事業の第二の目的である新規利水の供給について需要実態と乖離したものであることを一貫して主張してきました。

公開質問状では、2016年愛知県企業庁作成の「企業庁経営戦略」や2019年に作成された「名古屋市上下水道経営プラン2028」で「水道需要の

減少」を予測して経営計画を立てている事実を突きつけましたが、中部地整はそれには触れず最初の回答でも再回答でも「検討主体において必要量の算出が妥当に行われているか等について確認を行っています」（すでに確認している）とのコピー回答をくりかえすだけでした。

これまで導水路問題でたびたび論陣を張ってきた中日新聞論説委員の豊田雄二郎氏も「後ほど振り返って評価しようとした時に、このような数字に基づいて計画を立てたのかという批判は避けられないことから、改めて考え直していただきたい」と、「学識経験を有する者からのご意見」で述べています。

なお、徳山ダム導水路事業に先行する、霞ヶ浦導水事業（霞ヶ浦と那珂川、利根川を結ぶわが国最大の導水路事業）では、首都圏の水あまりが顕著になる中、平成2年、埼玉県水道の導水路事業「撤退」が決定しました。当時、工事の進捗率は事業費ベースで76%でした。

徳山ダム導水路は、まだ、着工していません。愛知県・名古屋市は今撤退すれば「かすり傷」で済みます。今すぐ撤退を！！

特別水利使用者	目的	開発地点	最大取水量(m ³ /s)	
			現行	変更案
茨城県	水道	那珂川	2.626	2.626
		霞ヶ浦	1.000	1.000
	工業用水道	那珂川	1.574	1.574
東京都	水道	霞ヶ浦	1.400	1.400
九十九里地域水道企業団	水道	霞ヶ浦	0.340	0.000
印旛郡市広域市町村圏事務組合	水道	霞ヶ浦	0.746	0.522
千葉県	工業用水道	霞ヶ浦	0.400	0.200
埼玉県	水道	霞ヶ浦	0.940	0.000
合計			9.026	7.322

(再評価) 霞ヶ浦導水路事業

令和2年度第4回関東地方整備局
事業評価監視委員会
配布資料より

偲ぶ

磯貝政司さん

『長良川漁師口伝』の作者の磯貝さんが昨年7月に亡くなりました。82歳でした。

磯貝さんは愛知県新城の出身で、近くの豊川を絶好の遊び場として子供時代を過ごしました。高度成長時代に岐阜、北海道、長野などで企業戦士として働き、40代の後半に公務員に転職し一宮に落ち着きました。

以来川好きのDNAが目覚まし、木曾三川流域の撮影をはじめ、1992年に写真撮影の途中で大橋兄弟に出会いました。兄弟の魅力に引き寄せられ、以来18年間にわたり兄弟の元に通り、幼い頃から漁師として過ごした日々を聞き取り数百時間に及んだテープを元に『長良川漁師口伝』をまとめられました。その理由を、「今を生きる人たちが決して撮ることができない過去の長良川を印画紙の代わりに“ことば”で残そうと考えたのでしょう。言い換えれば「川漁師の活字の写真」を撮りたかったのだと思います。」と後書きの中で語っておられます。

この本は今では長良川にはほとんどいなくなってしまった專業川漁師の興味深いさまざまな漁の仕方だけでなく、昭和から平成の激変してきた長良川の歴史を知ることのできる貴重な記録となっています。

「長良川は何としてでも後世のために残しておいてやっとかんといかんでなあ」川を愛し、命の力を信じ、トコトン漁一本で生き抜いてきた大橋兄弟の絶妙な語りと聞き手の声が聞こえてくる本です。

*ご遺族から保存されていた『長良川漁師口伝』をたくさん当会に寄贈していただき、希望される流域の図書館に献本したところ大変喜ばれています。

ご希望の方にも**送料込み860円**でお届けします。同封の「振込用紙」にお届け先をご記入のうえ、代金を振り込み、お申し込みください。

長良川漁師口伝

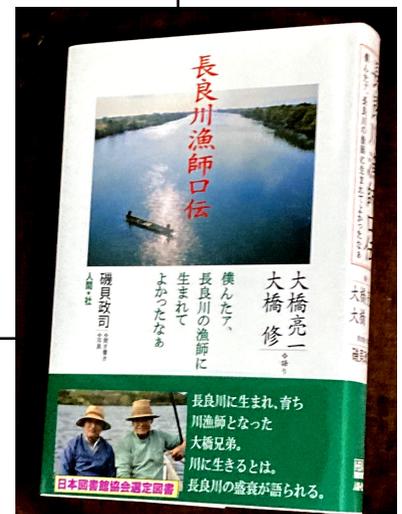
— 僕んたア、長良川の漁師に生まれてよかったなあ —

- | | | | |
|------|---------------|------------------|----------------|
| 第1章 | こだわりのサツキマス漁 | 第2章 | 先代漁師—祖父・おやじのこと |
| 第3章 | 川が学校—僕んたアの幼少期 | 第4章 | 兄弟漁師誕生 |
| 第5章 | 豊漁の川—全盛期の漁 | 第6章 | 生命を託した川激変 |
| 第7章 | 長良川河口堰に揺れる | 第8章 | 長良川今昔 |
| 第9章 | 漁師の生まれで幸せだった | | |
| 第10章 | 長良川よ！ 番外編 | ジャポニー輪島塗を支えるネズミ漁 | |

著者 大橋亮一・大橋修 磯貝政司（聞き書き・写真）

発行 人間社

2010年6月10日初版 461頁 定価 2600円



事務局より

◆埼玉県八潮市で道路が陥没した。トラックが転落し、運転手救出の作業をしている間に、陥没箇所は拡大し、一週間経っても運転手の安否は不明だ。地下の直径 4.75m の下水道管が破損したことが陥没の原因である。近隣住民は避難を余儀なくされている。排水規制での影響人口は 120 万人に及ぶ。水道は濁水が生じ、固定電話にも不通箇所が出ている。まさに大事故・大惨事である。

下水道管が老朽化し、早急な対応が必要なことは常識である。この箇所も調査されたが「B 判定」で後回しになっていた。そうしているうちに甚大な事故を引き起こしてしまったのだ。

橋梁も危ない、道路や鉄道のトンネルも心配だ…。老朽化したインフラへの対策は待ったなしである。

ひるがえって「徳山ダム導水路」。ないと困る、すぐに作って欲しいという声はどこにもない。愛知県や名古屋市の水道事業にとって徳山ダムの水は将来にわたって不要だ。「異常渇水時に木曾川や長良川に徳山ダムの水を補給する」ことは河川にダメージを与えるだけ、百害あって一利なしだ。要らないものに莫大なお金をかける余裕など、どこにもあるはずがない。

「要らないものを作るのはやめる」。当たり前の決断が求められている。(近藤ゆり子)

◆現在、国会では 2025 年度の予算審議が行われており財源問題が問われている。導水路については昨年 5 月、突然 2,270 億円に増額し事業継続が発表された。河村前名古屋市長が事業容認を発表した 2023 年 2 月には、彼が撤退を表明した 15 年前の事業費 890 億円の資料が示されていた。この 2.5 倍になる増額によって名古屋市の負担は、水道が約 207 億円、工業水道は約 102 億円、工業用水道の取水施設に別途約 12 億円になり負担金は 300 億円を越す。

昨年名古屋市民に配布された広報によれば、上下水道の赤字が約 300 億円になるので水道料金を値上げと説明されていた。しかし導水路の負担金については全く触れられていない。税金の無駄遣いを一貫して主張してきた河村さんは、この事業費増額を知っていて容認の判断をされたのだろうか。この費用も 12 年後の工事完成(2036 年予定)までにはさらに増額されることが予想される。岐阜県の負担は 75 億円、愛知県も言及していないが増えるのは明らか。今こそ、事業継続の可否を真剣に考える最後のチャンスではと思います。(田中万寿)

◆1 月 31 日の中日新聞岐阜県版に「コクチバス完全駆除へー刺し網併用 効果期待」という見出しの記事が掲載されました。コクチバスがアユ等に被害を与えるとして、駆除のためにこれまでに導入された電気ショック船に加え、刺し網を併用することで駆除効果を上げ完全駆除を目指すとなりました。

私もこの試みが成功し根絶されることを願っていますが、一方で疑問も出てきました。

長良川のオオクチバスは問題無いかということ。以前このニュースで少し触れましたが、長良川の岐阜市から下流域は、河口堰で流れが緩くなってからオオクチバスが生息し易くなり、増えて絶好の釣り場として人気があります。長良橋付近でも見かけますし、特に墨俣辺りから下流では流れがほぼ無くなるのでポートを出してバス釣りをする方もいます。

オオクチバスもコクチバスのように魚食性が強い魚です。春に海から遡上してくる小アユが相当数捕食されていることは当然予想されます。ところがこちらについては行政もコクチバスほど大問題として取上げません。

どうしてなのでしょう？小アユの遡上数に対し影響が少ないから問題ないということなのでしょう？

しかし世界農業遺産である長良川の生態系にとってはどちらも大きな問題だと思います。同じ緊急対策外来種なのにこの対応の違いが不思議でなりません。

私としては「オオクチバスを叩いて河口堰が出てくる」という、やぶ蛇になることを避けるためにではないかと密かに考えていますがどうでしょうか？(堀敏弘)

◆人類 82 億と地球の行く末を考えるならば、アメリカはパリ条約も国連人権理事会も抜けるのはためになりません。

スケールを少し辺境に絞ると、埼玉県八潮市の道路陥没事故は日本の社会インフラの老朽化の象徴です。国は無用の徳山ダム導水路計画を継続していますが、その金はどこに使うべきかを今、きちんと考える時であります。

人絶えて幾年月や春の雷

(粕谷豊樹)

◆何号か前に、アパート 5 階の部屋からゴミ出しの日には、非常階段を昇り降りしています。と書きました。いつまで続くか不安ながらも、書いて公表することで、嘘つきにならないよう頑張ります。と書いたのです。

65段の非常階段。何とか続いています、以前と比べるとゆっくり、ゆっくりになって、途中で休みながらなっています。入院したりもしましたが、退院後も、ここでくじけてはいけません！とヨタヨタしながら頑張りました。公表したことが、気持ちの支えとなり、何とか出来ています。ごくまれに、普通の歩調で調子よく昇れる日があるのですが、最近とても苦痛に感じる日があります。前は楽だったのに・・・どうしたのかな？と心配になるのですが、年を重ねるといふ事は、こういうことなのですね。

一日一日、年を取っているんだから、毎身体調は違って当たり前。それでも、最近チョットだけチャレンジしている事があります。元気な日は、階段を一段飛ばして昇っています。滑ったり、転んだりしては折角のやる気が、アダになるので、手すりに頼りながら注意しながらポチポチやっていますが、後で足が運動したね～！と教えてくれます。気持ちいいです。
頑張れ78歳の私！！ (岡久米子)



木曾川水系連絡導水路

揖斐、長良、木曾の木曾三川を結び、愛知県と名古屋市が確保した徳山ダムの都市用水を使えるようにする。同ダムに確保された渇水対策容量で河川環境を改善する。事業費を負担する名古屋市の河村たかし前市長の撤退表明などで事業は事実上、止まっていたが、同氏が姿勢を転換。国は2024年、事業費を890億円から2270億円に増額し、「継続」を決めた。岐阜県は75億円を負担する。2036年度に完成予定。

導水路事業をめぐる国の「検討の場」に出席した水野光二・瑞浪市長(正面右から2人目)ら1月20・24年5月17日、名古屋市中区



水環境を維持し、可茂・東濃の渇水対策にもなるなどとして県も賛同する国の木曾川水系連絡導水路事業。事実上、止まっていたが、事業費を負担する名古屋市の河村たかし前市長が2023年2月に容認に転じ、動き出した。しかし、目的や環境への影響を懸念する声は根強く、工事ルートにあたる県内の自治体の姿勢も一枚岩ではない。

岐阜知事選 2025

「沿川地域に大きな問題が発生してはいけない。しっかりと手当てしてほしい」「上水道の水源は100%地下水。枯渇断水といったことがないような対策を」
昨年5月17日、名古屋市で導水路をめぐる開かれた国の「検討の場」。事業費を負担する東海3県や名古屋市が賛同するなか、導水路のルートにあたる県内の関係市町を中心に次々に注

木曾川導水路 課題は山積

県は賛同 関係市町は注文続々



導水路の取水が検討されている揖斐川の西平ダム上流=8日、揖斐川町

文が出た。導水路は上流、下流の2ルートある。上流の延長43キロはほぼ地下トンネルで、揖斐川の徳山ダムでためた水を長良川、木曾川へ流す。だが、会議の直前に瑞浪市大湫町でリニア中央新幹線の工事が原因とみられる井戸やため池の水位低下が表面化していた。総論では事業継続「妥当」としたが、環境への影響を懸念する声が出た。二市長は「トンネルを掘れ



地下水や生物 影響懸念 ■放水地点検討「慎重に」

「何のための事業なんだろ」。市民学習会事務局長で、元名古屋市上下水道局職員武藤仁さん(76)は、「検討の場」の会場で反対の横断幕を掲げてそう言った。

「地下水に影響は出る。考えながら工事してほしい」と語った。木曾川上流のダムが空になった1994年をはじめ、東濃や可茂地域では渇水被害が相次いでおり、導水路はその対策になるという。だが、ルート沿いの多くの自治体は水源を地下水に頼っており、リニアのように工事で影響が出るのが怖い。



導水路事業をめぐる国の「検討の場」の会場で反対をアピールする人たち1月20・24年5月17日、名古屋市中区

「工事の影響が出てしまつてからは困る」
揖斐川町議の宇佐見直道さん(74)もそう心配する。取水口ができ、導水路の起点となる同町も井戸や地盤沈下、残土の捨て場など懸念材料がいくつもある。昨年6月に議会で岡部栄一町長をたたき、町長は徳山ダムの地元として事業推進を強調し、「ここは国策の是非を問う場ではない。話がかみ合わなかった。」
(編集委員・伊藤智章)

ただ深刻な被害が強調される94年の大渇水では木曾川の豊富な農業用水に節水してもらつて、断水の危機を脱した。水田の面積も減るなか、当時から、農業用水とのスムーズな事前調整を求める声も専門家からあるが、なかなか進まない。「工事の影響が出てしまつてからは困る」

そもそもその混乱のもとには、08年に完成した徳山ダムの利用目的の変化だ。高度成長期の構想のまま巨大ダムを建設したため、水余りに直面。当初毎秒15立方メートルに直面。当初毎秒15立方メートルの容量を6・6立方メートルに縮小し、渇水対策や水環境を含めた治水目的に振り向けた。いまや導水路の説明は渇水対策が前面だ。

河口堰運用30年

1995年7月6日、長良川河口堰の運用が始まりました。

水需要は、減りつづけ水資源施設として使われているのはわずかに16%。
ヨシ原は消え、ヤマトシジミ、アユ漁は激減。サツキマスは絶滅しようとしています。

この30年、生物多様性COP10の名古屋開催、水循環法の成立、流域治水など新たな動きも生まれました。
いま外来種の侵入、地球温暖化、迫る南海トラフ地震、インフラの老朽化と維持管理など課題も山積。
長良川をよみがえらせるために「河口堰30年」を市民と考える取り組みを、いま計画しています。
今後、計画を具体化し、お知らせしていきます。是非ご参加ください。

当面、なごや環境大学「**名古屋市水道と木曾三川**」にご参加ください。

●4月20日(日)14:00~16:00 ●環境省稲永ビジターセンター(名古屋市港区)

コーディネータ/富樫幸一(岐阜大学名誉教授)

報告・木曾三川と名古屋市水道・・・武藤 仁(長良川市民学習会事務局長)

・いのちの水をまもりつづける・・・近藤夏樹(自治労連公営企業評議会事務局長)



なごや環境大学

パネル展 よみがえれ長良川 2025

8月8日(金)~10日(日)
ぎふメディアコスモスギャラリー

- ・ミニコンサート「長良川と子ども」増田康記 / 歌声集団「ゆい」と子どもたち
 - ・写真展「長良川の魚」などを企画中です。
- ご期待ください。

名古屋市の水道と木曾三川		定員/40名
1	4/20(日) 14:00~16:00 座学	名古屋の水道は木曾川から、というだけでなくそれ以外にもいろいろ関連があることを学習します。
	会場/環境省稲永ビジターセンター(港区) 講師/武藤仁(よみがえれ長良川実行委員会)他	500円
2	5/11(日) 9:00~16:00 屋外	徳山ダム導水路現地見学ツアー
	損斐川上流の徳山ダムから長良川・木曾川に導水する計画の現地を見学するバスツアーです。	1000円
3	6/1(日) 10:00~15:00 屋外	長良川下流域環境観察会
	長良川河口堰運用後の環境の変化を現地で観察します。	1500円
4	7/6(日) 13:30~16:00 討論・WS	長良川河口堰運用30年シンポジウム
	長良川河口堰運用開始から30年の現状と今後の方向性についてゲストを交えて考えます。	500円

発行：長良川市民学習会 <http://dousui.org/>

代表：粕谷志郎
連絡先：武藤 仁 / 090-1284-1298
〒500-8211 岐阜市日野東 7-11-1
mutohitoshi@yahoo.co.jp



私たちの活動は皆様のカンパで成り立っています。
賛同してくださる方は、ぜひカンパをお願いします。
ゆうちょ銀行口座：00840-3-158403
口座名称：長良川市民学習会